

「シンガポール派遣参加報告書」

京都大学文学研究科修士1回 笹井佐保

以下では今回のシンガポール派遣に関して (1)プログラム内容、(2)学習成果、(3)海外での経験、(4)進路への影響の四点を順に報告する。

(1)プログラム内容

今回のプログラムでは、我々は National University of Singapore(NUS)および Yale-NUS College で開かれた計6回のセミナーを受講した。また滞在期間の中日には、学生が各々の研究成果を発表するカンファレンスも行われた。

セミナーの内容は心の哲学といった現代的なトピックや、アリストテレスやカントといった哲学史に関するものなど多岐にわたるものであった。受講にあたっては事前に論文を読んでもらうよう指示があり、受講者は各自分担任してレジュメを準備した上でセミナーに臨んだが、その甲斐あって積極的な態度で授業参加できたように思う。またセミナー・カンファレンスのどちらにおいても、参加する以上は発言するのが当然だという雰囲気があり、(ときには話を遮ってまで)活発に議論することが求められた。

(2)学習成果

報告者は当初、語学力を向上させることと、セミナーに参加し、現地学生と互いの国の文化や哲学に関する意見交換を行うことを留学の目標としていた。

まずセミナーについてであるが、上述の通り多彩な内容のセミナーが開講されており、報告者はこれに参加することで己の知識の幅を広げることができた。また現地の哲学研究室の大学院生の方々が観光やディナーに連れて行ってくださり、交流の機会をもつことができた。たとえば中国哲学と西洋哲学との関係性についてなど、彼らの話は報告者にとって新鮮であり、己の知識不足を痛感するとともに今後の研究および学習のモチベーションが高められた。

語学に関してもわずかながら進歩がみられた。事前に受けた TOEFL の結果から特にスピーキング能力に不安があったが、現地では向こうの学生や先生方が辛抱強く聞いてくださったこともあって、拙いながらもなんとか話すことができた。

(3)海外での経験

シンガポールの街並みを見て興味深く感じたのは、ダウンタウンの背の高いビル群や、リトルインディアやチャイナタウンなど全く景色の異なる街が程近い距離に立ち並んでいるということである。また新たな地下鉄の路線が建設されていたり、そこかしこにクレーン車があったりと開発が進む様子が見られ、日本にない熱気が感じられた。また酒やタバコなどの嗜好品は高くなっているものの、フードコートでは一食300円で食べることができ、贅沢をしなければ暮らしやすいように見えた。いずれにしろ日本では見られない光景で大変興味深かった。

(4)進路への影響

報告者は現在修士課程に在籍しており、今後の進路としては博士課程には進まず就職を予定している。近年ではグローバル化が進んで海外との取引が増えており、どんな職種に就こうとも英語の使用は避けられないように思われるが、そうとは分かっているにもかかわらず英語で話すことが億劫であった。しかし今回の留学でいくらか英語で話せたことで苦手意識が改善され、英語を用いて仕事をする事への意欲が増した。

報告は以上である。今回の派遣は報告者にとって気づかされることが多く、非常に実り多い体験であった。来年度も同様のプログラムがあればぜひ参加したい。